

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

第 27 号



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

【旧中筋家住宅の修理事業】

江戸時代末期の大庄屋の遺構、重要文化財旧中筋家住宅の保存修理工事は、着々と進んでいます。平成十二年二月より和歌山市の事業として工事は始まりました。当センターでは設計監理業務を受託するだけでなく、保存修理そのものも業務として受託して修理工事を行っています。長屋蔵、北蔵が平成十六年に竣工し、今年度は主屋がおおむね竣工する予定です。

着工以来実に六年半が経過しましたが、庭園整備や活用施設の整備、また茶室や人力車庫などの未指定文化財修理との工程調整などのため、工期を当初の予定から二年延ばし、平成二十二年三月に完了する予定で進めています。実に十年がかりの大修理事業となりました。

【主屋の傷み】

旧中筋家住宅は屋敷構えとしても大庄屋の権勢をうかがい知

旧中筋家住宅のいま

保存修理の進捗状況

るに十分なものですが、なんといってもその象徴となるのは主屋です。東西二三メートル、南北二五メートルの巨大なもので、単に大きなだけでなく、三階に望楼を据えた複雑な屋根の独特の姿をしています。主屋は嘉永五年（一八五二）に建設されましたが、これまで大きな修理はなく、木部も屋根も、一五〇年間そのまま風雨に耐えてきました。しかし特異な姿を創り出す複雑な屋根のおかげで、谷や棟が多くあり、それが災いして特に入り隅のところでも雨漏りしやすい構造になっていました。そのため経年で少しずつ屋根瓦が緩んでくると、雨漏りしてきてしまい、着工前は雨漏りというような生やさしいものではなく、滝のように雨水が室内に落ちるところもありました。このような状況でしたので、木部も腐朽し、中庭の底は完全に倒壊していた状態でした。

加えて、床を支える大引や、



屋根葺き中の旧中筋家住宅主屋

そして柱と梁の一部には、シロアリが入ってしまったりました。シロアリは部材内部を喰い荒し、被害にあった部材は、もはや構造物としては耐力不足

— 第 27 号の主な内容 —

1. 旧中筋家住宅のいま
— 保存修理の進捗状況
2. 山と木と
— 重要文化財福勝寺の保存修理から

◎重要文化財福勝寺保存修理工事事務所◎
649-0144 海南市下津町橋本1065番地
tel./fax. 073-494-0312

◎重要文化財旧中筋家住宅保存修理工事事務所◎
649-6324 和歌山市祢宜148番地
tel./fax. 073-477-5969

になったものがありました。特に問題だったのは、三階までの通し柱の一本にシロアリが入っていたことです。そのためこの通し柱は途中で折損してしまい、二階、三階の南西隅の床は、やや落ち込んでしまっていました。

主屋の工事は「半解体修理」という修理区分で行っています。一般的な半解体修理では、柱や梁などの構造体を残し、その他は全てを解体しますが、中筋家の場合ひどく破損した部分を除けば全体としては屋根瓦をめくり、屋根野地を解体、床廻りの大引を外したぐらいです。そうしたことの理由の一つは、おおむね大半の構造体や造作材が健全であったこと、もう一つの理由は解体範囲を広げるほど、結果として建築当初の土壁を解体することになり、壁そのものの保存が出来なくなるためです。木部と違い、土壁は解体してしまったら元のように戻せないからです。

三階の通し柱の修理、土間部の小屋組修理、床廻りの修理、土台の修理等々、部分的には激しく傷んでいたの



左側は土間台所屋根の本瓦葺



軒瓦を仮並べする

したが、今月になって主屋の長かった木工事は、すべて終わりました。建具も、襖以外はすでに建て込みを完了するに至りました。

【完成めざす主屋】

木工事が終わり、主屋は現在屋根を葺いています。昨年度には三階の屋根、土間台所部屋根の一部を葺きましたが、年度あたりの予算の関係で、七割ほどがまだ残っていました。その残りの部分を施工しているのです。

主屋は本瓦と棧瓦で葺き分けられています。棧瓦は棧の部分が丸い独特の形をしており、普通の棧瓦とは異なっています。当地で「丸棧」と呼ばれるこの棧瓦は、和歌山や九州の一部でしか使われていない、全国でも珍しい形をした棧瓦です。前述のように一五〇年間、基本的に屋根は葺き替えられていませんでしたので、大半が建築当初の瓦でした。再び使用出来るかどうか、全てを叩いて検査したところ、およそ六割強ほどが再使用できました。

主屋の瓦は土を置いて葺く伝統的な

▼ 上が普通の棧瓦、下が丸棧



▼ 軒先には瓦縁りの板を打つ



工法でしたが、そのために軒先が重くなつて屋根垂下の原因となつていました。耐震性も考慮すると、屋根が重いのは良いことはありません。このため今回の工事では、空葺きといつて、葺き土を置かないで葺く工法を一部でとりました。具体的には各部の軒先部分と庇部分、そして三階屋根のすべてが空葺きです。

空葺きは、何もないうままでは瓦が安定しないので、瓦を受ける瓦棧を下地葺きである土居葺き上面にまず打ち、そこに瓦を一枚毎に釘で打ち留めていきます。実はこのような工法は一般的に行われているもので、それほど珍しくも難しくもないのですが、問題は相手が古瓦であることです。

現代の瓦は機械で生産され、均一な大きさ、形状で仕上がっています。しかし昔の瓦は一枚ずつ手作りです。一見同じように見える瓦でも、大きさや形状がまちまちなのです。このため古瓦を現代の感覚でそのまま葺くと、ガタガタの屋根面になってしまいます。今回の工事では、すべての古瓦の利き幅（葺いたときの横幅）を計り、大き



東側からみた主屋



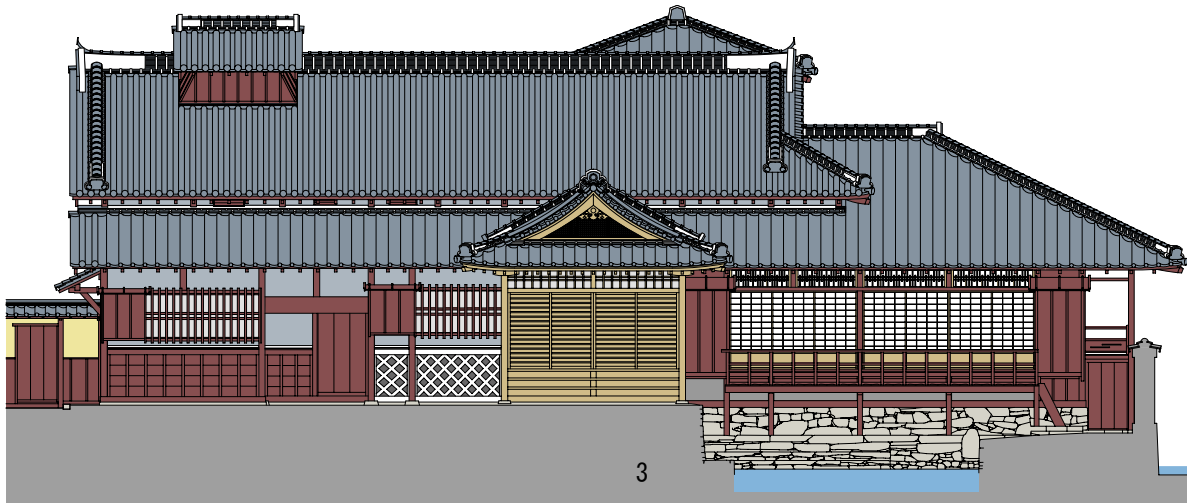
丸棧の地瓦葺の様子

き毎に分類し、その各分類を瓦列ごとにまとめて、屋根に割り付けました。葺くときも一律に打ち付けた瓦棧では、各瓦がうまく瓦棧に載つてこないため、瓦の尻に少しだけ葺き土を置いてなじませながら、瓦の通りが良くなるように葺いています。軒先には瓦の形に合わせた瓦繰りの板を利き幅毎に分けて、打ち付けています。現代の棧瓦葺きは、それこそあつという間に葺き上がりますが、古い瓦を再用し保存していくために、手間がかかっているのです。

屋根工事は今年いっぱい完了する予定です。主屋の残りの工事は、左官工事での仕上げ塗りがあることと、土間にカマドや流しを造ること、そして襖と畳の修理です。完成まであともう一息というところです。工事用の仮設屋根を解体し、外観が一望できるようになるのが、今から楽しみです。

主屋に続いて表門にも取りかかっています。現在は床廻りを修理しています。本誌上では、中筋家の修理を通してわかった、さまざまなお伝えしていきたいと思えます。（御船達雄）

▼ 旧中筋家住宅主屋竣工正面図



山と木と

近頃は親王誕生に因み、高野槇^{こうやまき}が注目を集めました。槇とは、真(ま)・木(き)、つまり本当の木の意味だとも云います。日本書紀によると、スサノオ尊が、杉と楠は船に、桧は宮殿に、槇は木棺にと木種を与えたとあります。スサノオ尊の子のイタケル命は木種を分布し、のち紀伊国に奉られました。これは伊太祁曽神社(和歌山市)の由来にも深く関わっています。

高野山では、仏前に高野槇の枝を供えます。樹脂が多く独特の芳香があり、水に強いことから風呂桶や屋外の柵などに用いられますが、古くは建築材としても使われていました。例えば高野山の壇上伽藍にある国宝・金剛峯寺不動堂(鎌倉時代)には、柱や垂木の一部に槇が使われています。江戸時代には高野槇は、杉・桧・松・樅^{もみ つが}・榎^{こうやりくぼく}とともに「高野六木」として手厚く保護され、勝手に伐採することは許されていませんでした。

和歌山は気候に恵まれ、このような「六木」以外にも様々な種類の木が、人々の役に立ってきました。重要文化財福勝寺(海南市橋本^{きつもと})では、椎^{しい}や楠^{くす}などの、今ではあまり建築材として用いない木材も多く使われています(下記の表組を参照)。

橋本周辺は、現在では蜜柑の産地で見渡す限りの果樹林となっています。しかし本来は、本州太平洋岸は、シイ(スダジイ等、ブナ科)やタブノキ(クスノキ科)等の高木を中心とした照葉樹林帯であったそうです。福勝寺境内には大きな楠があり、近くに残る森には椎もあるそうです。本堂が約500年前、求聞持堂が約350年前に建立されたときは、今より森は広く、楠や椎の巨木も多かったと考えられます。

木は山の生命そのものです。その木が変じて立派な仏堂となったことに、人々は畏敬の念を抱いたに違いありません。(鈴木徳子)

参考文献

- ◎「日本書紀(上)」岩波書店 1980年
- ◎「総本山金剛峯寺山林部50年の歩み」総本山金剛峯寺山林部 平成13年
- ◎「日本一多くの木を植えた男/宮脇昭」日本放送出版協会 2005年

(独) 森林総合研究所による樹種鑑定結果

本堂下陣大引	当初	コジイ	本堂小屋束	江戸初	スダジイ
本堂垂木	当初	ク ス	本堂母屋桁	江戸初	コジイ
本堂裏甲	当初	ク ス	求聞持堂丸桁	江戸初	コジイ
本堂軒支柱	江戸初	コジイ	求聞持堂縁板	江戸初	ク ス

その他現場での目視鑑定

本堂丸柱	当初	楠、樺、桧	求聞持堂丸柱	江戸初	樺
本堂化粧裏板	当初	杉	求聞持堂角柱	江戸初	榎
本堂束踏み	当初	松	求聞持堂梁	江戸初	松

風車 第27号

平成18年10月2日発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404 和歌山市湊571-1

tel. 073-433-3843

fax. 073-425-4595

e-mail maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>

【お知らせ】
当センターのホームページでは、旧中筋家住宅、福勝寺の保存修理の様子を月ごとに報告しています。ぜひご覧下さい。
TOP | 文化財建造物課の業務 | 旧中筋家住宅、もししくは福勝寺 | 工事報告



本堂の楠の柱を、ぬか袋で磨く